

ヴィヴァルディ盤を聴く(4)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(4)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデルのアナログ盤を聴き直してきました。今回もヴィヴァルディ盤を聴いてみることにしました。

2. ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、バッハのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

今回は、次のヴィヴァルディ盤を聴いていきます

LONDON SLA(A) 1020

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季

ネヴィル・マリナー指揮アカデミー室内管弦楽団

LONDON SLC(A) 2354~5

アントニオ・ヴィヴァルディ 調和の幻想全曲

ネヴィル・マリナー指揮アカデミー室内管弦楽団

ASharlin SLC-24

アントニオ・ヴィヴァルディ 調和の幻想イ短調

調和の幻想ニ短調

アルベルト・ゼッダ指揮ミラノアンジェリクム室内管弦楽団

3. ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴結果

LONDON 盤の四季は、ZANDEN のリストに従い TELDEC、R、第4時定数 Mid と DECCA、R、第4時定数 Mid で聴いてみましたが、前者はざらつき感がありましたので後者を探りました。四季と言えばイムジチが定番となっていた頃、マリナー指揮アカデミー室内管弦楽団の演奏が現れて話題を呼んだことを覚えています。イムジチの穏やかでウォームな演奏に対し、切れがよくすっきりとした演奏です。

LONDON 盤の調和の幻想は、上記の四季に倣って、DECCA、R、第4時定数Midで聴いていきましたが違和感はありません。聴きなれた6曲目、8曲目、9曲目、11曲目を聴きましたが、四季と同様、切れがよくすっきりとした演奏です。

ASharlin 盤の調和の幻想2曲は、同じ盤でバッハのオルガン協奏曲を聴き、バッハ盤を聴く(3)で報告しており、RIAA、R、第4時定数Midが良さそうだという結果になっていますので、それに倣って聴いていきましたが、違和感はありません。

発売当時ワンポイント録音ということで話題になりましたが、明晰でありながら、艶もあり魅力的な演奏を聴かせてくれます。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンチスタティックやスピーカーアキュライザーのCrstal EpY-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上